

協働ロードマップ

「地域における支え合い事業」

～民間の主体的な相談支援ネットワークによる多様な生活課題への対応～

活動報告書

(平成 24 年度新しい公共支援事業)

愛知県

生活協同組合コープあいち

(目次)

I	取り組みの背景…地域の現状と課題	P 1 ～ 2
	1 地域の現状「困りごとをどこに相談していいかわからない」	
	2 課題「地域における支え合い事業の開始に話し合ったこと」	
	3 コープあいちのこれまでの取り組み	
II	地域における支え合い事業の目標と実施計画概要	P 3 ～ 1 0
	1 目標と計画	
	2 5つのモデル地域の設定	
	3 年次計画	
	4 事業内容	
	5 各地域会議の目標・活動内容等	
III	一年間の取り組みから見えてきたもの	P 1 1 ～ 1 3
	1 「新しい支え合いモデル事業」の取り組みから見えてきたこと	
	2 「地域における支え合い事業」の成果を各地域に広げるために	
IV	活動結果	P 1 4 ～ 1 7
	1 全体会等	
	2 先進地域見学交流会	
V	地域会議	P 1 8 ～ 4 2
	1 千種区・本山地域における支え合い事業	
	2 守山区・小幡地域における支え合い事業	
	3 緑 区・大高地域における支え合い事業	
	4 豊橋市・舟原町地域における支え合い事業	
	5 奥三河地域における支え合い事業	
	6 「くらしの要望アンケート」調査結果報告（千種区・本山地域）	

I 取り組みの背景…地域の現状と課題

1 地域の現状「困りごとをどこに相談していいかわからない」

地域が変わりくらしが変わる中で、住民が日常の生活の中で、ちょっとした困りごとに出会った時に、その解決のためにどうしてよいのかわからない現状が生まれています。

様々な地域の活動グループから、以下のような困りごとや、解決困難なくらしの変化などが報告され、未解決のまま我慢している状況が共通して寄せられています。

- 問題があっても、どこに相談していいかわからない。
- 相談を受けても、どこにつなげればいいかわからない。
- 行政等の相談はハードルが高く我慢する。
- 地域の中では日常的関係が薄く、つながる場がない。
- 他人に迷惑をかけたくない。
- 他人に自分の家に入ってきてほしくない。
- 地域の生活圏に買物・修理のお店がなくなってきている
- 地域の中にちょっと寄れる・団らんの場がなくなってきている。

2 課題「地域における支え合い事業の開始に話し合ったこと」

地域の課題に対して、住民の相互のたすけあいで主体的に解決していく地域モデルをすすめることを目標にして「地域における支え合い事業」を実施しました。

地域には様々な課題があります。

- ごみ出し支援などのちょっとしたことや障がいのある子どもを抱えた老親の生活支援など、制度のなかでは単純には解決できない事例にどう対応していくのか
- 連絡先もなく、保険にも入っていない方が目の前で急変、救急車に搬送。回復して地域に戻られた後どうすればよいか
- 認知症の親の介護と子育ての両方に悩むといった、一人の人が同時期に抱える問題にどう対応していくのか
- 「私にできる事なら手伝いしてもいいよ！」と手を挙げていただける方はたくさんいるが、地域につなぎ役となる人がいない

そこで、地域における支え合い事業では、以下のような課題認識をしました。

- 制度の谷間にある様々なくらしのニーズへの支援
- 互助のネットワーク形成で複合的課題の解決力構築
- 連携の結び目となる、コーディネーターの担い手形成
- 地域のインフォーマルな情報を共有するための仕組み構築

3 コープあいちのこれまでの取り組み

(1) コープあいちが目指していること

- 中期ビジョンで、安心して暮らせる地域づくりへの参画を掲げています。
- 愛知県全域で40万世帯が加入し、共同購入班、個人宅配、お店、モーニングコープ（早朝の配達）、夕食宅配などをおして食生活を支えています。
- ふだんのくらしを大切に、おたがいさまの気持ちで、くらしのすけあいの活動をすすめています。
- 訪問介護、居宅介護支援、デイサービス、ショートステイなど在宅介護事業に取り組んでいます。地域包括支援センターも受託しています。
- 多様な生活課題に対する相談窓口を持っています。また、生活全般にわたるサービス事業を、相談を大切にしながらすすめています。
- 2009年度（平成21年度）より、地域の福祉力を支援する「コープあいち福祉基金」制度を設けています。毎年約30団体、累計で約120団体に助成してきました。

(2) コープあいち「安心して暮らせる地域づくり」をめざして

コープあいちは2007年（平成19年）から「安心して暮らせる地域づくり」をめざして、「安心して暮らせるネットワークのつどい」（以下「つどい」という）を開催してきました。そこでは、地域に次のような5つのネットワークを重ねることを目標にしてきました。

- 身近な地域でまちづくりをすすめるネットワーク
- 生活支援の担い手のネットワーク
- 医療・福祉などのネットワーク
- 相談窓口と横断的に応えられる事業のネットワーク
- 生きる権利を守る（権利擁護の）ネットワーク

(3) 安心して暮らせるネットワークのつどいで話し合ってきたこと

- ① 「つどい」は、2007年（平成19年）3月に第1回を行い、毎年一回3月に開催してきました。

「ちょっとした困りごとの相談窓口」「子育て支援の場づくり」「高齢者のたまり場づくり」「地域コミュニティと生協のお店・事業所の連携づくり」「様々な連携で進める高齢者の食の事業」「最後まで自分らしく生きるための権利擁護を考える」「街の活性化」「障がいがあっても安心して暮らせる街づくり」「消費者被害、介護放棄、雇用破壊など人権問題と支えあい」「福祉事業と地域づくり」などのテーマを中心に実践交流や分科会を設けてきました。

- ② 2012年（平成24年）3月開催の第6回のつどいでは、東日本大震災での支援活動の経験も交えて、これまでの取り組みを振り返り、このつどいで出会ったつながり、地域の活動でのつながり、自治体や住民組織、さまざまな分野の専門家と一緒に、「それぞれの地域で安心して暮らせるつながりをつくりましょう」と呼びかけられました。

- ③ 第7回のつどいは、2013年（平成25年）3月14日に「地域における支え合い事業」第4回全体会に引き続いて開催しました。